

## 資料のスケッチを通して郷土の歴史に親しむ

山梨高校の1年生は、歴史学習のきっかけとして、自分で選んだ資料をスケッチするという学習活動に取り組んだ。186名という大人数だったので、教育主事のガイドツアーは活用せず、生徒各自に自主的に学習させるようにした。

事前 博物館の概要について、同じティーチャーズクラブ会員の早川先生に説明してもらい、今回の授業のねらいや学習方法について事前に説明しておいた。

当日の流れ

ガイダンス



各自、見学しながら展示物のスケッチ

1. スケッチする対象の名称を確認し、それを記す。
2. スケッチする。
3. 観察・スケッチ作業を通して気づいたこと、わかったことを書き留める。

引率教師と教育主事は展示室内を巡回して生徒の支援を行った。



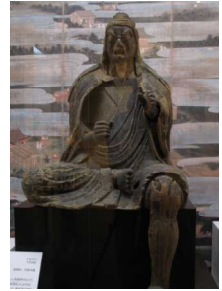
引率教師によるまとめ

生徒がスケッチした資料例

**甲州金**  
山梨独自の貨幣である「甲州金」は、江戸時代を通して採掘された雨畑金山の金から鑄造されている。



**役行者像**  
役行者(えんのぎょうじゃ)は名を小角といい、奈良時代の人で、修験道の祖とされる。



**蔵王権現立像**  
奥秩父の主峰金峰山の山頂近くに蔵王権現が宿るといふ五丈岩がそびえている。



**陶磁器と大甕**  
笛吹市で出土した室町時代の常滑大甕の中に、14～15世紀に作られた中国製の陶磁器などが納められていた。



事後

見学当日は展示物をよく見ることとスケッチすることに専念させ、まとめは次の時間に行った。見学を終えて、簡単なアンケートと見学を通して歴史について学んだこと感じたことをプリントにまとめる作業を実施した。

一言

1年生は今回の見学が団体での校外学習としては初めてだった。生徒の中には既に見学したことがある者も若干名いたが、多くの者が初めての見学であった。バスで博物館に到着し、大きな施設を目の当たりにしたときから博物館に対して抱いていたイメージが変わり始め、多くの生徒が新しい博物館の展示スタイルに興味を示していた。スケッチへの取り組みをしつつも体験コーナーにほとんどの時間を使っている生徒もいた。大人数である分、見学方法やローテーションについて、もっと工夫が必要であると感じた。

(山梨高等学校 香西 万梨子)